令和７年４月１日

東京都立南多摩中等教育学校令和７年度学校経営計画

東京都立南多摩中等教育学校長
富川 麗子

１ 目指す学校

（１）スクール・ミッション

心・知・体のバランスをとれた人間力を育む教養教育を推進し、学力・突破力・協働力・探究力の育成を通じて人間力を育みます。

フィールドワークなど特色ある教育活動により、６年間を通して“確かな学力” を身に付けます。

新たな価値を創造し、主体性をもって国際社会の様々な分野で活躍できるリーダーを育成します。

（２） 教育目標　　一 心を拓く　一 知を極める　一 体を育む

（３） スクール・ポリシー

①グラデュエーション・ポリシー

日本のみならず世界の第一線に立ち、国際貢献を目指します。

進路先として研究開発型大学の先進的な教育環境下で教育を受けることの良さに気付くように指導します。

異年齢集団の交流を取り入れた行事である南魂祭（体育祭、合唱祭、文化祭）等を通して、生徒の思いりの心、人間関係調整力、克己心を培います

②カリキュラム・ポリシー

ＩＣＴ の効果的活用、アクティブラーニング、ルーブリック評価などの研修等を通し授業力の更なる向上を図ります。また、シラバスに基づき、教科とフィールドワーク活動の連携を一層深めた教育を展開します。

③ アドミッション・ポリシー

・本校の特色を理解し、探究活動や国際交流に意欲をもち、グローバル人材としての資質・能力を身に付けたい児童
・自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、互いに協力して物事を成し遂げようとする児童
・全ての教科等の学習活動に意欲的に取り組むとともに、学校行事や生徒会活動をはじめ様々な活動に主体的に参加する児童

２　中期的目標とその達成に向けた方策

（１）グローバル人材としての資質・能力を育成する。

①文理融合とグローバルな社会課題研究を踏まえたカリキュラムを実働させ、生徒の資質・能力の変容分析する。

② 探究学習と教科学習、国際理解教育及び教育ＤＸの連携を強化する。

③ 探究学習の本校独自テキストを総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間で活用し、生徒の探究力の向上を図る。

④ 国内外の大学、企業、国際関係機関と協働し、高度な学びの場を生徒に提供しコンソーシアムを強化する。

（２）深い思考力や探究心を育み、学び続ける姿勢を培う。

①フィールドワーク活動及びライフ・ワーク・プロジェクトの一層の充実を図る。

②生徒の「主体的な学び」を引き出すのに必要な確かな学力を身に付ける授業を展開する。

③６年に渡る系統的なキャリア教育を通して、生徒の夢の実現を支援する。

（３）思いやりの心、克己心、人間関係　　調整力、自発性、主体性を育む。

①社会貢献に係る教育活動を推進する。

②ボランティアマインドの醸成等に係る教育活動を推進する。

③生活指導指針に則った基本的な生活習慣を定着させる。

④異年齢集団の交流を重視した行事を推進する。

⑤心の教育の充実を図る。

⑦人権教育の充実を図る。

（4）体力を向上させ強靭な体づくりを行う。

①前期課程から後期課程への円滑な引継ぎを通して部活動を推進し、生徒の体力向上を図

②体力テスト等の数値動向を分析し、保健体育の指導改善に生かす。

③体育的な行事の充実を図る。

（5）教職員の組織力を高める

①外部の専門機関や専門家からのアドバイスを積極的に取り入れ、組織改善に生かす。

②分掌や学年を越えた主任同士の情報共有を図り、全ての校務についてＰＤＣＡサイクルを徹底し、企画調整会議の質の向上を図る。

③業務分担と責任の明確化・仕事の効率化を図り、教育系職員と行政系職員が一体となって明確な目的・課題意識の下に校務を遂行する。

３　今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

目標１　全ての教科・科目で基礎・基本の徹底を図り確かな学力の向上を目指す

目標２　探究（フィールドワークとキャリア教育）と国際理解教育、教育ＤＸの融合を図る

目標３　思いやりをもった社会的リーダーを目指す生徒の育成

目標４　地域から期待され、小学生、その保護者、教育関係者から「選ばれる南多摩中等教育学校」

重点事項　１　授業の充実

２　「チーム南多摩」によるカリキュラムマネジメントの推進

３　近隣地域から世界各国の多様な人々との交流等を通して世界に通じるグローバル人材の育成

４　応募者数の確実な確保

（1）学習指導

①外部委託の生徒による授業評価を行い、教員が自らの授業を客観的に捉えることにより授業改善を推進する。

②探究学習の深化を図るべく専門家を招聘した校内研修会及び校内授業研究やティームティーチングでの教員との連携を強化し、授業力の更なる向上を図る。

③グローバル企業、国内外の大学及び研究機関との連携の下、フィールドワーク活動による探究活動及び論文作成を通して、生徒の学習意欲を喚起し生徒の多面的・多角的思考力を養う。

④大学、企業、各種研究機関との連携を更に深め、課題解決型のプロジェクトを実施するなどして、文・理を越えた価値創造力を育成する教育を推進する。

⑤Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20（以下「GE-NET 20」という。） 指定校として、４技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスのとれた英語教育を推進する。外部検定試験等のスコアを伸ばしたり、資格取得を促したりして、各自の英語運用能力を把握させ、向上させる。

⑥東京都イングリッシュ・エンパワーメント・プログラムにより派遣される JET３名を放課後の Reading and Discussion 講座及び海外の学校との交流等に関わらせるとともにＴＧＧを活用し、生徒の英語による様々なテーマに基づく議論ができる能力や他国の同世代の生徒との交流を通して異文化理解に係る能力等を育成する。

⑦第４学年で海外研修を実施することに加え、生徒を海外交流校との取組（オンライン活用を含む）に参加させ、海外の生徒と共同研究させるなどして、国際感覚を身に付けさせるとともに、多角的、多面的な視野を育む。

⑧あらゆる学習活動の機会において主権者教育に取り組み、平和で民主的な国家・社会の形成者として求められる力を培う。

⑨成年年齢の引き下げに伴い、生徒に社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を身に付けさせる。

⑩「道徳」の授業を通し、道徳的価値の自覚を深めさせ社会の様々な場面や状況に応じて適切に選択・行動する能力を育成する。道徳授業地区公開講座の保護者や地域の参加者数を増やし、授業改善に結び付ける。また、全ての教育活動を通し、人間関係の構築に必要なコミュニケーション能力を向上させるとともに、人間としての在り方生き方に関する自覚を深めさせ、道徳的実践力を育成する。

⑪「人間と社会」の授業において、社会の現実に照らした体験活動や演習を通じて道徳性を養い判断基準を高めることで、より良い生き方を主体的に選択し、行動する力を育成する。

⑫ＴＯＫＹＯデジタルリーディングハイスクール事業（ＴＯＫＹＯ教育ＤＸ推進校）として、ＧＩＧＡスクール構想、ＣＹＯＤ事業を通して教科等でデジタル教科書等を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現を図るとともに、情報科の授業の一層の充実を図る。

⑬３年生の夏季休業明けに実施する接続テストを実施して、生徒に後期課程の学習に向けた心構えをもたせる。

（２）生活指導

①心と体の健康推進に向けた組織力の一層強化

心身に関わる配慮や見守りが必要な生徒個々の状況把握・情報共有、特別支援教育、教育相談等をはじめとする「心と体の健康推進」に関わる内容について研修会等情報共有を図るとともに、ＳＣとの連携を一層深める。

②いじめ防止

ア　いじめのアンケートを活用し、生徒部及び各学年によるケーススタディを年３回以上実施し、いじめの早期発見・早期解決に当たる。

イ　保護者や生徒会との連携によるいじめの防止策を強化する。

ウ　生徒が作成したＳＮＳ東京ルールの学校版を基にして、ＳＮＳ等への書き込みによるトラブルの防止や携帯電話等を適切に利用することができる資質・能力を養う。

③学級活動、ホームルーム活動、朝礼、学年集会等における講話を通して、社会人として必要である基本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）を身に付けさせる。

④八王子警察署との連携の下、「命の講演会」等、各種講演会を開催し、生徒に「命の大切さ」を深く考えさせる機会を与え、心の教育を推進するとともに、生徒が危機的状況に置かれた際に適切な援助希求行動がとれるようにする。

⑤産婦人科医及び精神科医を活用して、人権教育（性に関する教育等）やメンタル面での支援を行う。

⑥特別な支援の必要な生徒に対する適切な手立て（個別支援計画の活用や特別支援学校との連携）を通して対応する。

⑦年間保健指導計画に基づき、担任、養護教諭、栄養士、保護者と連携し食育を推進する。

⑧保健便り、給食便りを発行し、保護者等と連携してアレルギー対応に十分注意を払い、生徒の健康づくりを進める。

（３）進路指導

①自習室を整備し、チューターを活用して生徒の自主学習をサポートすることで、生徒同士の学び合いの機運を醸成するとともに、自主的、自発的に学習する力を育成する。

②外部機関の進学指導コンサルティングを通して得たデータを基にして、生徒や保護者の進路面接や進路指導に生かす。

③大学入学共通テストや難関大学入試の問題分析、予備校研修の分析会等の参加を通して、教員の受験指導力向上を図る。

④大学の教員と本校教員の連携を通して、より良い高大接続を図る。

⑤企業との連携を図り、研究所への訪問や企業研究者から生徒への課題提示を通して、生徒の課題解決力を高める。

⑥同窓会あかね会と連携し、卒業生の進路追跡調査方法を確立し、進路指導の一層の充実を図る。

（４）特別活動等

①探究活動を柱とする本校の教育課程の特色を踏まえ、宿泊行事や遠足等の特別活動の６年間に渡る系統的な実施に向け、各行事の目的、内容、実施時期等を精査して実施する。
②異年齢集団の交流を取り入れた行事である南魂祭（体育祭、合唱祭、文化祭）を通して、生徒の思いやりの心、人間関係調整力、克己心を培う。
③オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを発揮する機会を意図的に設定し、ボランティアマインド、豊かな国際感覚、障害者理解等の一層の醸成を図り、共生社会の実現に向け、一人一人の能力を最大限に伸長して、社会に参加・貢献できる人間を育成する。
④部活動において、「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」に基づき適切に実施するとともに、指導体制の工夫改善及び前期課程から後期課程への円滑な指導の接続により一層の活性化を図り、生徒の体力向上や精神面の成長を促す。また、部活動や同好会の設置等に関わる規定の確認、見直しを行い、校内の共通認識の下、持続可能な運営体制を整備する。
⑤防災支援隊の活動の充実を図るため、「東京マイ・タイムライン」の活用や専門機関（工学院大学等）と連携した防災活動研究指定校としての研究を深める。
⑥朝読書及び朝学習の推進、図書館の効果的な活用及びビブリオバトルへの生徒の参加を通して、生徒の読書の量や質を向上させる。
⑦リアルとオンラインを活用したハイブリット海外交流を通して、視野と知識を広げるとともに、生徒に多様性や様々な価値観を尊重することの重要性を理解させる。

（５）体力向上に向けた取組

①体力テスト等の結果を分析し、個に応じた保健体育の指導を実施する。
②外部競技施設を活用した体育祭を実施するなど、体育的行事を一層充実させる。
③保健体育の授業や学校行事、運動部活動等を通し、運動を楽しみながら、自ら体力を高めていく態度を養う。

（６）組織体制ー「チーム南多摩」としての強固な組織構築

①各分掌・学年の年間業務一覧及び会議等一覧を作成し、全職員が分掌や学年の壁を越えて業務内容等に関する情報を共有することで業務の関連を図り、企画調整会議の機能を強化する。
②学校の目指す方向性、校務の進捗状況等、職員が絶えず校務全般に対する状況を把握できる環境を整える。
③校内規定等の見直しを通して、全職員が同一の視点で生徒への教育や対応に当たれるようにする。
④ＯＪＴ機能を活用して組織運営を行う。
⑤校内の言語環境を整えるため、職員が生徒の範となる言動を心がける。

（７）募集・広報対策ー学校の魅力を内外にアピール

①昨年度における学校見学会や学校説明会等への参加人数や適性検査応募倍率等を基に分析を行い、募集・広報活動の内容や方法の改善を図る。
②塾訪問等を通して広報活動を積極的に行う。
③リアルとオンラインを組み合わせてハイブリッド型の授業公開、学校紹介、学校説明会等を実施し広報活動の充実を図る。また生徒に ＰＲ 動画を作成させる。
④ホームページに生徒の活躍をはじめ新規事項を適時・適切にアップする。
⑤様々な分野の大会やコンテストに生徒が積極的に出場するよう支援し、日頃の取組への励みとするとともに結果を広報に生かす。

（８）経営企画室の運営

①校長、副校長、経営企画室長間の打合せを毎朝行い、経営参画型の経営企画室の運営を行う。
②適正な自律経営予算の策定と執行に務めるとともに、学校全体のコスト意識を高める。
③施設・設備の活用状況や修繕箇所の把握を行い安心・安全な教育環境を提供する。

（９）働き方改革の推進

①職員は各自週２回の割合で、定時退勤日を設け、年度当初の自己申告書の自由記述欄に記載し、ライフ・ワーク・バランスの推進に努める。

②効率的な職務遂行を目指し、職員個々の状況に適切に応じた時差勤務を継続しフレックス勤務を想定した校務運営について研究を進める。

(10) 服務の厳正

計画的に服務事故防止研修を実施するなどして、個人情報の不適切な取扱いの防止、体罰や不適切な指導の防止をはじめ、あらゆる服務事故を未然防止する。

4　今年度の重点目標・目標数値等

項　目	内　容	目　標
（1）学力向上	①生徒による授業評価において、学習効果の項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる。」の到達率 ②前期課程－都調査、全国学力学習状況調査、学力推移調査結果 ③後期課程－同一学年の外部模擬試験結果で年度末のＳ段階・Ａ段階の割合が ④５年生－国・数・英の３教科で学習到達ゾーン ⑤２年生（３技能） GTEC for Students Core ⑤３年生（３技能） GTEC for Students Basic ⑦４年生（４技能） GTEC for Students Advanced ⑧５年生（４技能） GTEC for Students Advanced ⑨留学に挑戦する生徒	・８０％以上 ・前年度を１ポイント上回る ・前年度を１ポイント上回る ・Ａ段階を超える生徒７０％以上 Ｃ段階の生徒はゼロ ・平均 505 点、受験者の 20%以上が 570 点以上 ・平均 590 点、受験者の 20%以上が 615 点以上 ・平均 830 点、受験者の 20%以上が 920 点以上 ・平均 870 点、受験者の 20%以上が 1010 点以上 ・１年間１名から２名
（2）進路指導	①教員の進路分析会 ②３年生 ③４年生 ④５年生 ⑤６年生 ア　大学入学共通テスト イ　大学入学共通テスト ウ　難関国公立大学現役合格者数	・年間２回以上実施 ・２学期に研究開発型大学等、大学訪問を実施 ・２学期までに８割の生徒が興味ある学問及び希望学部の方向性を決定 ・９月までに、９割以上の生徒が希望学部・学科を具体化 10 月以降は受験体制、３学期に希望大学を具体化 ・８割以上の生徒が研究開発型大学への進学を目指す ア　６教科８科目受験－６割以上 イ　難関国公立大学合格可能点数（８割）水準以上－２割以上 ウ　１３名以上
（3）生徒の心のケア等に係る数値	①ＳＣ連絡会 ②いじめのアンケート ③産婦人科医及び精神科医等と連携した講演会 ④特別な支援の必要な生徒の個別指導に資する研修会	・前期課程－月２回開催、 後期課程－月１回開催 ・年間３回以上実施（アンケート調査用紙３年間保存） ・各年間２回程度実施 ・年間３回以上実施
（4）募集対策に係る数値	①適性検査の倍率 ②ホームページの更新 ③授業公開、学校紹介・学校説明会等の実施回数及び参加者数（オンライン含む）	・５倍以上 ・300 回以上 ・延べ 3500 名以上参加
（5）いじめや服務事故の未然防止	①いじめ・体罰服務事故等重大事故	・０（ゼロ）